

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	オリーブキッズせんかわ（重症心身障害児）				公表日	2024年 9月 30日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	2		車いすが多いことで歩ける子のスペースを確保しづらいときがある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	1	車いすの子はもちろん、歩ける子の突発的な行動にも目が届くようにしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	3		入口が引き戸となっており子どもを巻き込むため出入りには注意が必要。 エレベーターが好きな子が一人で乗ろうとして危険な時がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	2	定期的に環境を見直し、清潔で安全に子どもたちが過ごせるようになっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	3	完全な個室は作らず、カーテンやマットで仕切って別空間を作ることで目を行き届かせられるように個別の場所を確保している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	1		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1		児童数が多いため、添乗は保護者と接する機会に頂いた意見を適切に共有する必要があるが、共有漏れが発生することがあった。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		定期的な支援会議もあり、広く意見交換ができている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		研修や受講の案内や機会に恵まれていると思う。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	5		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	2	面談を定期的に行い、子どもや保護者の意見、希望を反映できている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	1		子どもや保護者との面談内容をすべては把握しきれず、大まかな事柄だけでも先手で共有する必要がある。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	2	計画が更新された際にはその都度共有されている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	1		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	6		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	1	重心外の子供や職員とも連携を図り、多職種でかかわっている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	2	様々なイベントで子供が楽しめるよう随時開催を行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		集団で外出する機会が多いが、その日の各子どもの体調にも対応し個別での支援も行っている。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	2		急な予定変更や子供の状態によって対応に追われることがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	口頭でも意見を交換し、カンファとしてまとめて共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	1	カンファの共有を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6	3		
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		各子どもなりの「はい」「いいえ」を質問形式などで希望を聞いており、そのサインも職員間で共有できている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		管理責任者や常勤職員、看護師などが多く参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	2	学校と直接連絡が取れている。	急な体調不良による早退などで対応に追われることがある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	2		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	4		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	2	事業所内のイベントに他事業所を招待して交流を図っている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	2		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		保護者との情報共有や、相談できる体制を整えている。	医療ケアの細かい部分は看護師しかわからないこともあると思う。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	3		家族参加の研修の機会はあまりない。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		身体介助は同性介助を基本としており、本人の意思を尊重した介助・支援に取り組んでいる。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		保護者や子供の希望に対し、経験や成功体験を積ませることで適切に応じていると思う。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	4		保護者参加のイベントを開催した際、参加希望の保護者がいなかった。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		苦情に対し管理責任者が直接すぐに対応することが多くある。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	2	利用日は連絡帳を通して活動内容をお伝えしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	3	システムにパスワードを導入し、スタッフ以外が見れないようにしている。	スタッフ個人のスマホ端末で写真撮影を行う時があるため、注意が必要。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	1	子どもがわかりやすい文章や絵を取り入れて掲示物を作っている。メッセージツールを活用し保護者とも連絡を取りやすい環境を作っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	2		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	2	非常時のマニュアルは細かく共有されている。	災害の訓練に出勤日の兼ね合いで参加できないときがある。(後日資料は共有されている)
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	1	避難訓練など定期的に行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		体調に関することや服薬等の情報をスタッフ間で共有し必要があれば保護者に報告、相談をし確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		各子どものアレルギーに対し職員間での共有によって対応が明確にされている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	2		ヒヤリハットの導入、共有はしているが職員によって把握があいまいなことがある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		他事業所も交えて意見交換を行いながら研修を行うなど意識を高めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9		子どもや保護者に説明、了解を得たうえで職員間でも共有している。		